

徳川みらい学会第2回講演会



「遊芸と家元——日本独特の遊びと組織——」

静岡文化芸術大学 熊倉功夫学長



徳川みらい学会の第2回講演会を6月13日(木)、静岡市民文化会館で開催しました。講師は静岡文化芸術大学の熊倉功夫学長。遊芸と家元制度について語っていただきました。

要旨は次のとおりです。

遊芸とは

遊びというものが、江戸時代一体どういう意味があったかということ、今我々が遊びと考えているものが、実は当時の人々にとっては、大事な教養であったり、あるいは社交の術でありました。江戸時代に遊芸と言っていたのは、今の趣味に近い。井原西鶴の「日本永代蔵」では、例えば書道、茶道、詩文、連俳、能、鼓論語、蹴鞠、浄瑠璃、滑稽、曲芸、口上などが当時の遊芸に挙げられています。

家元の成り立ち

その遊芸というものが盛んになれば、遊技のプロである師匠とそれ

について勉強しようという弟子が出てくる。師匠には権威があり、一種のピラミッド型の教授体系が生まれてきた。遊芸のトップに立つのが家元です。一子相伝制という家元制度は、今で言えば、免状発行権。このようなシステムが、大体今から250年程前に誕生しました。

そして、今我々が家元と言っているものは、江戸時代の家元制度と異なるものです。明治期に入るとパトロンであった大名がいなくなり、大衆によって支えられる家元制度となります。

家元制度と日本型経営システム

例えば「年功序列制」、「終身雇用制」、「稟議制」といった日本型経営システムは、日本の高度経済成長というものを支えるエネルギーでした。家元制度というものを考えてみると、実は大変このシステムに似ています。

日本型経営システムが戦後大きく

く伸びていった理由には、誰もが安心して身を委ねる権威がこのシステムを作り上げていったからだと思います。高度経済成長期、男たちは委ねるべきもとを会社に求めましたが、女性は身を委ねるべき権威に家元を選びました。

今後の家元制度

このような現代の家元制度は、今後どうなっていくのか。

家元制度と似ている日本型経営システムを見ると、ある人は、システムは崩壊し、今後は自由競争だと言います。私は必ずしもそうとは思っていません。今日本はまだまだ安定社会にあり、大きな変革期には到達していないとみています。

そういう中で、古いシステムが、近代の新しい時代に即応しながら継承されているということが、その変化の中で意外と大事なことでないかという気がいたします。

近代の日本というものは、江戸時代に生成されたさまざまなシステム



ムというものを色濃く残している。色濃く残しながら、それはそのまま伝わっているのではなくて、それを近代的なシステムとしてつくり替えることによって、我々日本人の1つの財産として今日伝わっています。徳川という時代をもう一度見直すことによって、我々はその中に生成された、すばらしいものを今日の新しいシステムに生かし、直していく必要があるのではないかと感じています。

個人・法人会員を随時募集しています。皆さまのご入会をお待ちしております。  
 〈問い合わせ〉徳川みらい学会事務局 (TEL) 284-9660 (HP) [徳川みらい学会](#) [検索](#)